



株式会社トークナビ 代表取締役

といた

樋田 かおり さん

1985年、岐阜県出身。高校時代よりアナウンサーを志し、大学卒業後、青森放送に入社、アナウンサーとして情報番組MCや報道キャスターを務める。28歳でフリーアナウンサーとして独立し、千葉テレビ「東国原英夫のそのまんまでは通しません!」、「燃える男 中畑清の1・2・3 絶対頭」などで活躍。2015年、女性アナウンサーの活躍を推進するため、株式会社トークナビを創業。著書に『社長の伝え方には会社を変える力がある』(青春出版社)など。

【写真】安岡 嘉

プロの「伝える力」で企業の発展に貢献 「女子アナ」の新キャリア開発に挑む経営者

【取材・文】原 正紀

株式会社クオリティ・オブ・ライフ代表取締役、特定非営利法人キャリアコンサルティング協議会常務理事・事務局長、一般社団法人留学生支援ネットワーク理事、一般社団法人産学協働人材育成コンソーシアム理事・事務局長、高知大学経営評議会委員・委員教授、中小企業診断士、早稲田大学法学部卒業後、株式会社リクルートを経て創業し、人材事業を産学官において展開。公的委員多数歴任、「インタビューの教科書」(同友館)をはじめ、著書多数。

HARA'S BEFORE

女性アナウンサーが自らの強みを生かし、創業したのが、樋田さんが率いるトークナビである。女性活躍の時代の象徴的な企業として、また、ジョブ型時代の専門家的企業として、その事業内容や組織風土などをぜひ聞いてみたい。

企業の広報代行「女子アナ広報室」

原：女性アナウンサーのキャリア支援のために会社を設立したと伺いました。まずは、事業の現状についてお聞かせください。

樋田：今のメインは、「女子アナ広報室」という企業の広報代行です。現役のアナウンサーがクライアント企業専属の広報になる事業です。私たちの会社には地方民放局のアナウンサー（局アナ）経験者をメインに、フリーのアナウンサー経験者も在籍しており、それぞれの得意分野や経験を生かした分業スタイルで事業を行っています。広報活動での言語化やプレスリリース作成などは局アナ経験者が担当し、経営者でも気づかない自社の魅力の発掘などを行っています。認知度アップのためのブランディングやメディアアプローチなどは、フリーアナウンサー経験者が担当しています。

同じアナウンサーでも聞くのが得意、話すのが得意など、さまざまな強みがあるものです。私もそうですが、地方局出身のアナウンサーは自分で原稿を書いたことで、メディア視点でのプレスリリース作成などが得意なんです。また、メディアアプローチはメディア側に対する営業力や交渉力が必要なので、フリーで仕事を取る経験してきた人のほうが向いています。

「女子アナ広報室」事業の反響は大きくて、ク

ライアント企業からは「アナウンサー視点でプレスリリースを作成してもらい、メディアに出演できた」など喜びの声がありました。私たちは企画書を作ってテレビ局に持参したり、一般的なプレスリリース手法からテレビ出演につなげたりするなど、経験を生かして効果を出せています。その会社の広報の切り口をどう見つけるか、それをどう表現するかなど、地方局での経験などで培ってきた取材力を生かすことができている、当社の強みだと思っています。

原：「女子アナ」自体が全国的ブランドなので、とてもユニークで効果がありそうな事業ですね。

樋田：設立当初より社名である「トークナビ」とおり、世の中のトークをナビゲートする企業を目指していました。トーク力を練習する事業として「エレベーターピッチ研修」なども行っています。幹部や管理職が部下に対して、的確でわかりやすい指示を伝えられるようにする研修などを提供しています。アナウンサーは15秒で言いたいことを伝える技術が必要な仕事なので、それを伝授するための研修です。私自身がもともと話すことが苦手で、いろいろと努力してアナウンサーという仕事に就けたので、その経験を生かしてきました。

経営者の伝える力をナビゲート

原：「声で未来を変える」というビジョンを掲げて